

作成日 2009年2月2日
改訂日 2015年10月30日

製品安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	プロットHTLV-I
構成試薬	: 「血清希釈用液」 : 「対照用強陽性血清」 : 「対照用弱陽性血清」 : 「対照用陰性血清」 : 「抗原転写ニトロセルロース膜」 : 「ビオチン標識抗ヒトIgG抗体」 : 「POD標識アビジン」 : 「洗浄用濃縮液」 : 「発色用液」 : 「基質液」
会社名	富士レビオ株式会社
住所	東京都新宿区西新宿2-1-1
担当部門	お客様コールセンター
電話番号	0120-292-832
FAX 番号	03-6279-0204
製品コード	204450
整理番号	50

2. 危険有害性の要約

含有している成分（アジ化ナトリウム、エタノール、過酸化水素、ニトロセルロース）で以下の情報が報告されている。

「血清希釈用液」、「対照用強陽性血清」、「対照用弱陽性血清」、「対照用陰性血清」、「ビオチン標識抗ヒトIgG抗体」に共通成分（危険有害物質）：アジ化ナトリウム

GHS分類

分類実施日	H22. 2. 19、政府向け GHS 分類ガイダンス（H21. 3 版）を使用	
物理化学的危険性：	火薬類	区分外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高压ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類できない
	自己反応性化学品	タイプ G
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	分類できない

	水反応可燃性化学品	区分外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分2
	急性毒性（経皮）	区分1
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	区分1
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分外
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） （心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性）	区分1
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露） （中枢神経系、心血管系、肺）	区分1
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：		
分類実施日	急性毒性：H22.2.19 政府向けGHS分類ガイダンス（H21.3版）を使用 慢性毒性：H18.3.31、GHS分類マニュアル（H18.2.10）を使用	
	水生環境急性有害性	区分1
	水生環境慢性有害性	区分1

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語： 危険
 危険有害性情報： 飲み込むと生命に危険
 皮膚に接触すると生命に危険
 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
 重篤な眼の損傷
 心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性の障害
 長期にわたる、または、反復ばく露により、中枢神経系、心血管系、肺の障害
 水生生物に非常に強い毒性

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き：【安全対策】

取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
眼、皮膚または衣類に付けないこと。
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
適切な保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

飲み込んだ場合、直ちに医師に連絡すること。
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼でやさしく洗うこと。
皮膚に付着した場合、直ちに医師に連絡すること。
直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと。取り除くこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
皮膚または髪に付着した場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合、眼に入った場合、飲み込んだ場合、吸入した場合は直ちに医師に連絡すること。
眼に入った場合、水で数分間、注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露した場合は医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
漏出物を回収すること。

【保管】

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

「発色用液」

成分（危険有害物質）：エタノール

GHS分類

分類実施日：	H22. 2. 19、政府向け GHS 分類ガイダンス（H21. 3 版）を使用
物理化学的危険性：	火薬類 分類対象外
	可燃性・引火性ガス 分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール 分類対象外
	支燃性・酸化性ガス 分類対象外
	高压ガス 分類対象外
	引火性液体 区分 2
	可燃性固体 分類対象外

自己反応性化学品	分類対象外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	分類できない
水反応可燃性化学品	分類対象外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：急性毒性（経口）	区分外
急性毒性（経皮）	区分外
急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
皮膚腐食性・刺激性	区分外
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2B
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	区分外
発がん性	分類できない
生殖毒性	区分 1A
特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）	区分 3（気道刺激性、麻酔性）
特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分 1（肝臓）、区分 2（中枢神経系）
吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：	
分類実施日：急性毒性：H22. 2. 19、政府向け GHS 分類ガイダンス（H21. 3 版）を使用	
慢性毒性：H18. 3. 31、GHS 分類マニュアル（H18. 2. 10）を使用	
水生環境急性有害性	区分外
水生環境慢性有害性	区分外

GHS ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語： 危険
 危険有害性情報：引火性の高い液体及び蒸気
 眼刺激
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ
 眠気又はめまいのおそれ
 長期にわたる、または反復ばく露により肝臓の障害

長期にわたる、または反復ばく露により中枢神経系の障害のおそれ
注意書き：【安全対策】

- 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
- 容器を密閉しておくこと。
- 静電的に敏感な物質を積みなおす場合、容器を接地すること、アースをとること。
- 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。
- 火花を発生させない工具を使用すること。
- 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- 適切な保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- 取扱い後はよく手を洗うこと。
- 使用前に取扱説明書を入手すること。
- すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- 適切な個人用保護具を使用すること。
- ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

【応急措置】

- 皮膚または髪に付着した場合、直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
- 火災の場合には適切な消火方法をとること。
- 眼に入った場合、水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- 眼に入った場合、眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
- 吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- 吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。
- 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

- 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
- 施錠して保管すること。

【廃棄】

- 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

「基質液」

成分（危険有害物質）：過酸化水素

GHS分類

物理化学的危険性：	火薬類	区分外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外

	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	区分外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	区分1
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口）	区分4
	急性毒性（経皮）	区分5
	急性毒性（吸入：ガス）	分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分3
	急性毒性（吸入：粉じん）	分類対象外
	急性毒性（吸入：ミスト）	分類できない
	皮膚腐食性・刺激性	区分1A-1C
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	区分外
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分2
		特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）	区分1（肺）、区分2（血液）
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性：	水生環境急性有害性	区分2
	水生環境慢性有害性	区分外

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語： 危険

危険有害性情報：火災又は爆発のおそれ；強酸化性
飲み込むと有害（経口）
皮膚に接触すると有害のおそれ（経皮）
吸入すると有毒（蒸気）
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷

生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
呼吸器・中枢神経系の障害
長期又は反復ばく露による肺の障害、長期又は反復ばく露による血液の障害のおそれ
水生生物に毒性

注意書き：【安全対策】

すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
使用前に取扱説明書入手すること。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
熱から遠ざけること。
裸火または他の着火源に噴霧しないこと。
防火服、防災服、耐火服を着用すること。
適切な保護手袋、保護面を着用すること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
衣類及び他の可燃物から遠ざけること。
環境への放出を避けること。

【応急措置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。
大火災及び大量の場合：区域より退避させ、爆発の危険性により遠くから消火すること。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
飲み込んだ場合：口をすすぐこと。
眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚（または髪）に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。皮膚を流水、シャワーで洗うこと。
衣類にかかった場合：服を脱ぐ前に、直ちに汚染された衣類及び皮膚を多量の水で洗うこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合：気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。口をすすぐこと。
眼に入った場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
吸入した場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

可燃物、その他の禁忌物質から離して保管すること。
容器を密閉して換気の良い場所で施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務を委託すること。

「抗原転写ニトロセルロース膜」

成分（危険有害物質）：ニトロセルロース

GHS分類

分類実施日	H22. 2. 19、政府向け GHS 分類ガイダンス (H21. 3 版) を使用
物理化学的危険性：	火薬類 等級 1.1
	可燃性・引火性ガス 分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール 分類対象外
	支燃性・酸化性ガス 分類対象外
	高压ガス 分類対象外
	引火性液体 分類対象外
	可燃性固体 分類できない
	自己反応性化学品 分類対象外
	自然発火性液体 分類対象外
	自然発火性固体 区分外
	自己発熱性化学品 分類できない
	水反応可燃性化学品 分類対象外
	酸化性液体 分類対象外
	酸化性固体 分類できない
	有機過酸化物 分類対象外
	金属腐食性物質 分類できない
健康に対する有害性：	急性毒性（経口） 区分外
	急性毒性（経皮） 分類できない
	急性毒性（吸入：ガス） 分類対象外
	急性毒性（吸入：蒸気） 分類できない
	急性毒性（吸入：粉じん） 分類できない
	急性毒性（吸入：ミスト） 分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性 分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 分類できない
	呼吸器感作性 分類できない
	皮膚感作性 分類できない
	生殖細胞変異原性 分類できない
	発がん性 分類できない
	生殖毒性 分類できない
	特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露） 区分 3(麻酔作用)
	特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露） 分類できない
	吸引性呼吸器有害性 分類できない
環境に対する有害性：	
分類実施日	急性毒性：H22. 2. 19 政府向け GHS 分類ガイダンス (H21. 3 版) を使用
	慢性毒性：H18. 3. 31、GHS 分類マニュアル (H18. 2. 10) を使用
	水生環境急性有害性 区分外
	水生環境慢性有害性 区分外

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語： 危険
危険有害性情報：爆発物：大量爆発危険性
眠気やめまいのおそれ

注意書き：【安全対策】

熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。
乾燥により爆発危険性が増す場合、製造または運転プロセスに必要な場合を除き、適切な物質にて湿らせておくこと。
火薬類が静電的に敏感である場合、容器および受器を接地すること、アースをとること。
粉碎、衝撃、摩擦のような乱暴な取扱いをしないこと。
適切な保護面を着用すること。
粉じん、ヒューム、蒸気、スプレーの吸入を避けること。
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

【応急措置】

火災の場合には区域より退避させること。
火災の場合に爆発する危険性あり。
炎が火薬類に届いたら消火活動をしないこと。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
吸入した場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

【保管】

国または都道府県の規制に従って保管すること。
換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別：混合物

化学名又は一般名： 体外診断用医薬品

成分及び含有量

「血清希釈用液」、「対照用強陽性血清」、「対照用弱陽性血清」、「対照用陰性血清」、「ビオチン標識抗ヒトIgG抗体」に共通

成分（危険有害物質）： アジ化ナトリウム (Sodium azide)

化学特性（化学式等）： NaN_3

分子量： 65.02

CAS No： 26628-22-8

濃度又は濃度範囲： 「血清希釈用液」、「対照用強陽性血清」、「対照用弱陽性血清」、「対照用陰性血清」 0.1%
「ビオチン標識抗ヒトIgG抗体」 3.2% (w/w)、

0.025% (調製時)

官報公示整理番号 (化審法) : (1) -482

「発色用液」

成分 (危険有害物質) : エタノール
化学特性 (化学式等) : C_2H_5OH
分子量 : 46.07
CAS No : 64-17-5
濃度又は濃度範囲 : 0.486%
官報公示整理番号 (化審法) : (2) -202

「基質液」

成分 (危険有害物質) : 過酸化水素
化学特性 (化学式等) : H_2O_2
分子量 : 34.02
CAS No : 7722-84-1
濃度又は濃度範囲 : 0.0025%
官報公示整理番号 (化審法) : (1) -419

「抗原転写ニトロセルロース膜」

成分 (危険有害物質) : ニトロセルロース
CAS No : 9004-70-0
濃度又は濃度範囲 : メンブレンフィルター (窒素含有率:12.6%未満)
官報公示整理番号 (化審法) : (8) -176

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息されること。気分が悪い時は医師を呼ぶこと。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちにすべての汚染された衣類を取り去ること。皮膚を速やかに洗浄すること。汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。直ちに医師を呼ぶこと。
- 目に入った場合 : 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。洗浄を続けること。直ちに医師を呼ぶこと。
- 飲み込んだ場合 : 速やかに口をすすぎ、医師の診断を受けること。吐かせないこと。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 「血清希釈用液」、「対照用強陽性血清」、「対照用弱陽性血清」、「対照用陰性血清」、「洗浄用濃縮液」、「発色用液」、「基質液」(水溶液) は不燃物であり、無関係である。
「ビオチン標識抗ヒトIgG抗体」、「POD標識アビジン」(凍結乾燥品) は不燃物であり、無関係である。
「抗原転写ニトロセルロース膜」 : 引火した場合は大量の水で消火する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：

関係者以外の立ち入りを禁止する。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
 作業者は適切な保護具（「8. 暴露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、
 皮膚への接触や粉じんやヒュームの吸入を避ける。風上に留まる。

環境に対する注意事項：

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。漏洩物を掃き集めて
 空容器に回収する。湿った不活性な不燃材料で処理し、清潔な帯電防止工具を用い
 てプラスチック容器に入れ、ゆるく覆いをし、後で破棄処理する。

封じ込め及び浄化の方法・機材：

危険でなければ、漏れを止める。すべての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫
 煙、火花や火炎の禁止）。床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策： 「8. 暴露防止及び保護措置」に記載の保護具を着用する。
 局所排気・全体換気： 十分な換気ができる場所で取扱う。
 安全取扱い注意事項： 火気注意。換気の良い場所で取り扱うこと。この製品を使用す
 る時に、飲食又は喫煙をしないこと。皮膚への接触、吸入又は
 飲み込んではいない。眼の中又は衣類に付けないこと。取扱
 い後はよく手を洗うこと。

保管

適切な保管条件： 直射日光を避け、2～10℃に保存する。
 保存時には凍結しないように注意する。
 安全な容器包装材料： 内容物が揮発しない容器を用いる。

8. 暴露防止及び保護措置

含有している成分（アジ化ナトリウム、エタノール、過酸化水素、ニトロセルロース）
 で以下の情報が報告されている。

管理濃度

アジ化ナトリウム：	設定されていない。
エタノール：	設定されていない。
過酸化水素：	設定されていない。
ニトロセルロース：	設定されていない。

許容濃度

アジ化ナトリウム

日本産業衛生学会（2009年度版）：	設定されていない。
ACGIH（2009年度版）：	TLV-STEL (C)
	0.29ppm(アジ化ナトリウムとして)
	0.11ppm(アジ化水素水蒸気として)

エタノール

日本産業衛生学会（2009年度版）：	設定されていない。
ACGIH（2009年度版）：	STEL 1000ppm

過酸化水素

日本産業衛生学会（2005年度版）：	設定されていない。
ACGIH（2005年度版）：	TLV-TWA 1ppm A3

ニトロセルロース

日本産業衛生学会（2009年度版）： 設定されていない。

ACGIH（2009年度版）： 設定されていない。

保護具

呼吸器の保護具： 防じんマスク、簡易防じんマスク

手の保護具： 適切な保護手袋を着用すること。

目の保護具： 適切な眼の保護眼鏡を着用すること。

皮膚及び身体の保護具： 適切な保護服を着用すること。

適切な衛生対策： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

	「血清希釈用液」	「対照用強陽性血清」
外観（形状、色）：	無色～淡黄色澄明の液体	無色～淡黄色澄明の液体
臭い：	ほとんどない	ほとんどない
pH：	ほぼ中性	ほぼ中性
融点／凝固点：	データなし	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲：	データなし	データなし
引火点：	データなし	データなし
自然発火温度：	データなし	データなし
燃焼又は爆発範囲：		
（上限）	データなし	データなし
（下限）	データなし	データなし
蒸気圧：	データなし	データなし
蒸気密度：	データなし	データなし
比重：	データなし	データなし
溶解性：	データなし	データなし
オクタノール／水分配係数：	データなし	データなし
分解温度：	データなし	データなし
	「対照用弱陽性血清」	「対照用陰性血清」
外観（形状、色）：	無色～淡黄色澄明の液体	無色～淡黄色澄明の液体
臭い：	ほとんどない	ほとんどない
pH：	ほぼ中性	ほぼ中性
融点／凝固点：	データなし	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲：	データなし	データなし
引火点：	データなし	データなし
自然発火温度：	データなし	データなし
燃焼又は爆発範囲：		
（上限）	データなし	データなし
（下限）	データなし	データなし
蒸気圧：	データなし	データなし
蒸気密度：	データなし	データなし
比重：	データなし	データなし
溶解性：	データなし	データなし

オクタノール／水分配係数： データなし データなし
 分解温度： データなし データなし

「抗原転写ニトロセルロース膜」

外観（形状、色）： 無色のシート状
 臭い： ほとんどない
 pH： —
 融点／凝固点： データなし
 沸点、初留点と沸騰範囲： データなし
 引火点： データなし
 自然発火温度： データなし
 燃焼又は爆発範囲：
 （上限） データなし
 （下限） データなし
 蒸気圧： データなし
 蒸気密度： データなし
 比重： データなし
 溶解性： データなし
 オクタノール／水分配係数： データなし
 分解温度： データなし

「ビオチン標識抗ヒトIgG抗体」 「POD標識アビジン」

外観（形状、色）：	白色の凍結乾燥品	白色の凍結乾燥
臭い：	ほとんどない	ほとんどない
pH：	—	—
融点／凝固点：	データなし	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲：	データなし	データなし
引火点：	データなし	データなし
自然発火温度：	データなし	データなし
燃焼又は爆発範囲：		
（上限）	データなし	データなし
（下限）	データなし	データなし
蒸気圧：	データなし	データなし
蒸気密度：	データなし	データなし
比重：	データなし	データなし
溶解性：	データなし	データなし
オクタノール／水分配係数：	データなし	データなし
分解温度：	データなし	データなし

「洗浄用濃縮液」

「発色用液」

外観（形状、色）：	無色澄明の液体	無色澄明の液体
臭い：	ほとんどない	ほとんどない
pH：	ほぼ中性	ほぼ中性
融点／凝固点：	データなし	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲：	データなし	データなし

引火点：	データなし	データなし
自然発火温度：	データなし	データなし
燃焼又は爆発範囲：		
（上限）	データなし	データなし
（下限）	データなし	データなし
蒸気圧：	データなし	データなし
蒸気密度：	データなし	データなし
比重：	データなし	データなし
溶解性：	データなし	データなし
オクタノール／水分配係数：	データなし	データなし
分解温度：	データなし	データなし

「基質液」

外観（形状、色）：	無色澄明な液体
臭い：	ほとんどない
pH：	ほぼ中性
融点／凝固点：	データなし
沸点、初留点と沸騰範囲：	データなし
引火点：	データなし
自然発火温度：	データなし
燃焼又は爆発範囲：	
（上限）	データなし
（下限）	データなし
蒸気圧：	データなし
蒸気密度：	データなし
比重：	データなし
溶解性：	データなし
オクタノール／水分配係数：	データなし
分解温度：	データなし

10. 安定性及び反応性

本混合物では確認していないが、含有している成分（アジ化ナトリウム、エタノール、過酸化水素、ニトロセルロース）で以下の情報が報告されている。

「血清希釈用液」、「対照用強陽性血清」、「対照用弱陽性血清」、「対照用陰性血清」、「ビオチン標識抗ヒトIgG抗体」に共通

成分（危険有害物質）：アジ化ナトリウム

安定性： 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。

危険有害反応可能性： 融点以上に、特に急速に加熱すると爆発することがあり、火災や爆発の危険をもたらす。銅、鉛、銀、水銀、二硫化水素と反応し、特に衝撃に敏感な化合物を生成する。酸と反応し、有毒で爆発性のアジ化水素を生成する。

避けるべき条件： 融点以上に、特に急速に加熱。

混触危険物質： 銅、鉛、銀、水銀、二硫化水素、酸

危険有害な分解生成物： 衝撃に敏感な化合物、アジ化水素

「発色用液」

成分（危険有害物質）：エタノール

- 安定性： 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
- 危険有害反応可能性： 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発の危険をもたらす。
硝酸、硝酸銀、硫酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤と激しく反応し、火災と爆発の危険をもたらす。
- 避けるべき条件： データなし
- 混触危険物質： 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニア、硝酸、硝酸銀、硫酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤
- 危険有害な分解生成物： データなし

「基質液」

成分（危険有害物質）：過酸化水素

- 安定性： 66%以上のものは爆発性がある。加温や光の影響により分解し酸素を生じて火災の危険性を増大させる。
- 危険有害反応可能性： アンモニアと接すると爆発の危険がある。炭素と接すると激しく分解し、支燃性ガス（酸素）を発生する。とくに金属が存在すると火災と爆発の危険を生じる。強力な酸化剤であり、可燃性物質や還元性物質と激しく反応し、とくに金属が存在すると火災や爆発の危険をもたらす。
- 避けるべき条件： 加熱、光、衝撃、摩擦
- 混触危険物質： アンモニア、炭素、金属、酸化剤、可燃性物質、還元性物質。繊維、紙など多くの有機物を侵す。
- 危険有害な分解生成物： 加熱により支燃性ガス（酸素）が発生する。

「抗原転写ニトロセルロース膜」

成分（危険有害物質）：ニトロセルロース

- 安定性： 法規制に従った保管及び取扱においては安定と考えられる。
- 危険有害反応可能性： 乾燥すると自然発火する。燃焼すると急速に分解し、窒素酸化物を生成し、火災や爆発の危険をもたらす。酸化剤、塩基、酸と反応する。
- 避けるべき条件： 乾燥、燃焼
- 混触危険物質： 酸化剤、塩基、酸
- 危険有害な分解生成物： 窒素酸化物

1 1. 有害性情報

本混合物では確認していないが、含有している成分（アジ化ナトリウム、エタノール、過酸化水素、ニトロセルロース）で以下の情報が報告されている。

「血清希釈用液」、「対照用強陽性血清」、「対照用弱陽性血清」、「対照用陰性血清」、「ビオチン標識抗ヒトIgG抗体」に共通

成分（危険有害物質）：アジ化ナトリウム

急性毒性：

経口 ラット LD₅₀ 45mg/kg (DFGOT vol.20 (2003))
飲み込むと生命に危険（区分2）

経皮	ウサギ LD ₅₀ 20mg/kg (ACGIH (2001)) 皮膚に接触すると生命に危険 (区分 1)
吸入(ガス)	GHS 定義における固体である。
吸入 (蒸気)	データなし
吸入 (粉じん)	データ不足で分類できない。 なおラット LC ₅₀ 37mg/m ³ が報告されているが、ばく露時間が不明である。
皮膚腐食性・刺激性：	ウサギの皮膚に適用した試験の結果、適用 4 時間後に腐食性を示し、6 匹中 3 匹が死亡したとの報告に基づき区分 1 とした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 (区分 1)
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：	皮膚腐食性が区分 1 なので、眼も「区分 1」とした。 重篤な眼の損傷 (区分 1)
呼吸器感作性又は皮膚感作性：	データなし
	生殖細胞変異原性：in vivo 試験のデータがなく分類できない。 なお、in vitro 変異原性試験では、微生物復帰変異試験で陽性の結果 (ACGIH (2001))、ヒトリンパ球またはチャイニーズハムスター卵巣細胞を用いた染色体異常試験、マウスリンパ腫細胞を用いた遺伝子突然変異試験ではいずれも陰性結果 (DFGOT vol. 20 (2003)) であった。強い変異原性は微生物に特有のもののみなされている (DFGOT vol. 20 (2003))。
発がん性：	ACGIH により A4 に分類されている (ACGIH-TLV(2005)) ので「区分外」とした。なお、ラットを用いた 2 年間経口投与による試験で、用量依存的な体重増加抑制と高用量群における生存率の低下が見られたが、発がん性の証拠は見出されていない (NTP TR. 389 (1991))。
生殖毒性：	ハムスターの皮下に埋め込まれた浸透ミニポンプから妊娠 7～9 日目にばく露した結果、2/15 匹が死亡、早期吸収の有意な増加、脳ヘルニアの発生が認められている (DFGOT vol. 20 (2003)) が、併せて、証拠文書として不十分なため出生前の毒性評価には使用できないと述べられている (DFGOT vol. 20 (2003))。かつ、投与方法も特殊であることから「分類できない」とした。
特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)：	経口摂取による中毒事故で心臓の強い鼓動、気絶、心臓虚血を呈した 5 人の実験技術者の例 (NTP TR. 389 (1991))、10～20 g を摂取後、精神状態の変化、顕著なアシドーシス、心律動異常、心拍数低下、低血圧を招き死亡した化学者の例 (NTP TR. 389 (1991))、極めて少量摂取した場合でも頻脈、過換気、低血圧を示した実験技術者の例 (HSDB (2009)) などの症例報告がある一方、本物質の標的器官は心臓血管系であり、末梢血管の拡張を起し血圧低下を招くと記述されている (DFGOT vol. 20 (2003)) ことから、区分 1 (心血管系) とした。また、上述のヒトの事例ではさらに症状として、めまい、気絶、精神状態の変化、非心臓性の肺水腫、代謝性アシドーシスが見られ、また、本物質を数グラム摂取した自殺例 (ACGIH (2001)) の所見として、肺水腫と脳水腫の記載が

あることから区分1（肺、中枢神経系、全身毒性）とした。なお、動物試験では経口投与により、ラットで心拍数低下と全身痙攣（DFGOT vol.20（2003））、ウサギで血圧低下と心臓障害（PATTY（5th, 2001））が記録されている。

心血管系、肺、中枢神経系、全身毒性の障害（区分1）

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：

ラットの13週間反復経口ばく露試験の最高用量（20 mg/kg/day）で臨床症状としてし眠、努力呼吸、死亡、組織学的病変として大脳と視床に壊死が観察された（NTP TR. 389（1991））。さらに、2年間反復経口ばく露試験では最高用量（10 mg/kg/day）で生存率の低下が見られ、この低下は試験物質ばく露に起因する脳の壊死と心血管虚脱が原因である述べられている（NTP TR. 389（1991））、ことから、区分1（中枢神経系、心血管系）とした。また、上記のラット13週間経口ばく露試験の20 mg/kg/dayでは、肺のうっ血、出血と水腫も観察されているので区分2（肺）とした。なお、イヌの反復経口ばく露試験（1～10 mg/kg/day）でも運動失調が見られ、大脳の組織形態学的変化が報告されている（HSDB（2009））が、ヒトのばく露に関しては重大な有害影響の発生を伝える報告は特に見当たらない。

長期にわたる、または、反復ばく露により、中枢神経系、心血管系、肺の障害（区分1）

吸引性呼吸器有害性： データなし

「発色用液」

成分（危険有害物質）： エタノール

急性毒性：

経口 ラットのLD₅₀値、6200-15000mg/kg bw（DFGOT Vol.12（1999））、13.7g(13700mg)/kg、17.8g(17800mg)/kg、11.5g(11500mg)/kg（Patty（5th, 2005））、9.8 - 11.6 ml/kg bw(7938 - 9396 mg/kg)、15010 mg/kg bw、7000 - 11000 mg/kg bw、14.6 ml/kg bw(11826 mg/kg)、7800 mg/kg bw、11500 mg/kg bw、11170 - 16710 mg/kg bw、7060 mg/kg bw、8300 mg/kg bw（SIDS(J)（2009））、はすべて区分外に該当している。

経皮 ウサギのLDLo=20,000 mg/kg bw（SIDS(2009)）に基づき、区分外とした。

吸入（ガス） GHSの定義における液体である。

吸入（蒸気） ラットのLC₅₀値のうち、区分4に該当するものが1つ{3,837ppmV（SIDS(2009)）}、区分外に該当するものが4つ{63,000ppmV(4h)（DFGOT Vol.12（1999））、20,661ppmV(4h)、66,181ppmV(4h)、22,627ppmV(4h)（SIDS(2009)）}であることに基づき、区分外とした。なお、被験物質の濃度は飽和蒸気圧濃度78,026ppmV（147.1 mg/L）の90%[70,223ppmV（132.4 mg/L）]より低い値であることから、ガスの基準値(ppmV)を用いた。

吸入（粉じん・ミスト）： データなし

皮膚腐食性・刺激性： ウサギに4時間ばく露した試験（OECD TG 404）において、適用

1 および 24 時間後の紅斑の平均スコアが 1.0、その他の時点では紅斑および浮腫の平均スコアは全て 0.0 であり、刺激性なし(not irritating) の評価 (SIDS(2009))に基づき、区分外とした。

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：

ウサギを用いた Draize 試験 (OECD TG405) において中等度の刺激性 (moderate irritating) と評価され (SIDS(2009)、DFGOT Vol.12 (1999))、適用後 1～3 日目に角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫が認められ、MMAS (Modified Maximum Average Score : AOI に相当) が 24.0 [ECETOCTR48 (1998)]、かつ 7 日以内に症状がほぼ回復している (ECETOC TR No. 48(2) (1998)) ことから、区分 2B とした。

眼刺激 (区分 2)

呼吸器感作性：呼吸器感作性：

呼吸器感作性：データ不足で分類できない。なお、アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられており、一方、軽度の喘息患者 2 人がエタノールの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されている (DFGOT (1996)) が、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも述べられている (DFGOT (1996))。

皮膚感作性：ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告がある (DFGOT (1996)) との記述があるが、「ヒトでは他の一級または二級アルコールとの交叉反応性が見られる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性は見られないことにより、エタノールに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」 (ACGIH (2001)、DFGOT (1996)、IUCLID (2000)) の記述に基づきデータ不足のため分類できないとした。

生殖細胞変異原性：

マウスおよびラットを用いた経口投与 (マウスの場合はさらに腹腔内投与) による優性致死試験 (生殖細胞 in vivo 経世代変異原性試験) において陽性結果 (SIDS (2009)、IARC (1988)) があるものの、極めて高い用量での知見であり、再現性も認められておらず、標準的 in vivo および in vitro 変異原性試験においても陰性であったことから、証拠の重みづけに基づき区分外とした。なお、in vitro 変異原性試験として、エームス試験はすべて陰性であり (DFGOT Vol.12 (1999)、SIDS(2009)、NTP DB (2009))、染色体異常試験でも CHO 細胞を用いた試験 1 件の陽性結果を除き他はすべて陰性であった (SIDS(2009))。

発がん性：

ACGIH はエタノールを A3 に分類しており (ACGIH(2009)) 区分 2 相当であるが、この評価に用いたデータは、ラット雌雄を用いた飲水による生涯試験であり、ヒトでの飲酒を想定して高用量 (10%濃度) で実施されている。より低用量 (1%または 3%濃度) のラット雌雄を用いた液体飼料による 2 年間試験においては明確な発がん性は示されていない (ACGIH(2009))。さらに、ヒト職業ばく露における疫学調査ではなく動物実験のデータに基づいており、ヒトに対しては不明であるとの但し書きがある。また、IARC はアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学

調査に基づいてアルコール性飲料をグループ1に分類しており (IARC Vol. 44 (1987))、2007年の再評価においてもアルコール性飲料およびアルコール性飲料中のエタノールをグループ1に分類している (IARC vol. 96 サマリー (Access on Oct., 2009)) が、このデータはヒトにおける嗜好的習慣的摂取のデータに基づいている (IARC vol. 96 は未発刊である)。さらに、EUではエタノールについての発がん性分類はされていない。以上のことから、現時点においては分類できないと判断した。

生殖毒性：

エタノールに関する疫学情報は多く、これまでの前向き研究あるいはケース・コントロール研究の結果から、一定量以上の飲酒が流産の発生あるいは発生のリスクを有意に増加させることが報告されている (IARC vol. 44 (1987))。また、妊婦の習慣的な飲酒が胎児に発育抑制、小頭症、特徴的顔貌、精神障害などを起こす胎児性アルコール症候群が複数の報告で認められる (IARC vol. 44 (1987)、SIDS (2009)、DFGOT Vol. 12 (1999))。その他に出生前のエタノール摂取による異常として、口蓋裂、手掌線の異常、心房心室中隔欠損、耳管欠損などが見られ、妊婦がエタノールを大量摂取した場合に催奇形性と胎児毒性が強く示唆されるなどの記述もある (SIDS (2009))。以上の疫学報告および疫学研究の結果は、ヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられるので区分1Aとした。なお、動物試験では、ラットおよびマウスに経口投与による一世代試験では悪影響がなく (SIDS (2009))、マウスの二世代試験で同腹生存仔数の減少が見られ (SIDS (2009))、また、ラットの妊娠期間中の経口投与による一部の試験で多指症、多合指症などの奇形が報告されている (IARC vol. 44 (1987))。

生殖能または胎児への悪影響のおそれ (区分1A)

特定標的臓器・全身毒性 (単回ばく露)：

ヒトに吸入ばく露した試験で、昏迷、傾眠、軽度の麻痺が観察されている (ACGIH (2001))。また、エタノール摂取による急性の毒性影響は中枢神経系の障害であると記載され (DFGOT Vol. 12 (1999))、重度の中毒では筋失調、霧視、複視、昏迷、低体温、嘔気、嘔吐、痙攣など、大量摂取した場合には昏睡、反射低下、呼吸抑制、低血圧が見られ、さらに呼吸または循環器不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている (Patty (5th, 2001))。上記のヒトでの昏迷、傾眠などの症状に加え、ラット、マウスおよびモルモットに吸入ばく露した試験における麻酔、傾眠、運動失調などの症状の記載 (SIDS (2009)、DFGOT Vol. 12 (1999)) に基づき区分3 (麻酔作用) とした。一方、ヒトに試験物質蒸気の吸入ばく露は低濃度でも眼と上気道に刺激性があるとの記述 (ACGIH (2001))、ヒトに吸入ばく露した試験で、咳および眼と鼻腔に疼きを感じたとの報告 (Patty (5th, 2001))、さらに非耐性の被験者の吸入ばく露試験では鼻刺激感が報告されている (Patty (5th, 2001)) ことから区分3 (気道刺激性) とした。昏迷、病

的睡眠を起こすとの記載に基づき区分3（気道刺激性、麻醉性）とした。

呼吸器への刺激のおそれ、眠気またはめまいのおそれ（区分3）

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：

ヒトでアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての器官に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的器官は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行する（DFGOT（1996））との記載に基づき区分1（肝臓）とした。また、アルコール摂取により重度の身体的依存症となった患者は、振戦、痙攣、譫妄の禁断症状に加え、しばしば嘔気、脱力、不安、発汗を伴い、アルコールを得るための意図的行動、および反射亢進が顕著となると述べられている（HSDB、（2003））ことから、区分2（中枢神経系）とした。なお、動物試験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットあるいはマウスの90日間反復経口ばく露試験の場合、ガイダンス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている（SIDS（2009））。長期にわたる、または反復ばく露により肝臓の障害（区分1）長期にわたる、または反復ばく露により中枢神経系の障害のおそれ（区分2）

吸引性呼吸器有害性：データなし

「基質液」

成分（危険有害物質）：過酸化水素

急性毒性：

- | | |
|--------|---|
| 経口 | ラットの4データから計算で得られたLD ₅₀ =311mg/kgに基づき、区分4とした。
飲み込むと有害（区分4） |
| 経皮 | ラット LD ₅₀ 4060mg/kg
皮膚に接触すると有害のおそれ（区分5） |
| 吸入（蒸気） | 本物質の飽和蒸気圧濃度は1980ppmであり、蒸気で行われたと考えられる試験で得られた、ラットLC50=1438ppmに基づき、区分3とした。
吸入すると有毒（区分3） |

皮膚腐食性・刺激性：ウサギに対して3分間、1時間または4時間の適用で、皮膚の全層におよぼ壊死、あるいは腐食性との結論が記載されていること、およびEUでC; R35に分類されていることから、本物質は皮膚に対して腐食性を示すと考えられる。しかし、細分類するには情報が不足しているため、区分1A-1Cとした。

重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷（区分1A）

眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：

本物質は皮膚腐食性物質である。動物でsevereな刺激性を有し、corrosiveであるとの記載がある。以上の情報に基づき、区分1とした。

重篤な眼の損傷（区分1）

呼吸器感作性又は皮膚感作性：

- 呼吸器感作性：データなし
皮膚感作性：モルモットでは2試験で陰性の成績があり、ヒトではパッチテストで多数の被験者が陰性であったと記載されている。しかし、ヒトのパッチテストで158例中2例が陽性であったとの記載もあり、データ不足のため分類できない。
- 生殖細胞変異原性：ヒト経世代疫学、経世代変異原性試験、生殖細胞 *in vivo* 変異原性試験の結果が無く、マウスを用いる小核試験で陰性の結果が記載され、生殖細胞 *vivo* 遺伝毒性試験で陽性結果がないことに基づき、区分外とした。
- 発がん性：IARCで3、ACGIHでA3と分類されているが、分類年の新しいIARCの方を採用して、技術指針に従い区分外とした。
- 生殖毒性：*in vitro*の実験でヒト精子への影響が見られたとの記載があり、動物試験において親動物の一般毒性に関する記述はないが、精子運動能への影響、雌の発情周期への影響、出産母獣数の減少、および出生児の体重減少が見られたとの記載があることに基づき、区分2とした。
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）
- 特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：
動物およびヒトにおいて鼻、喉、気管への刺激性が記載されている。動物ではいずれも区分1のガイダンス値の範囲内の用量で肺および気管のうっ血、肺水腫、肺気腫、気管上皮の壊死の記載がある。これらに基づき、区分1（呼吸器）とした。ヒトで頭痛、めまい、振戦、けいれん、昏もう、失神、および脳梗塞の記載があることに基づき、区分1（中枢神経系）とした。
呼吸器・中枢神経系の障害（区分1）
- 特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：
イヌにおける蒸気の吸入試験で、区分1のガイダンス値範囲内の用量で肺に線維組織巣が散見され、無気肺領域と気腫領域の混在を認め、ヒトにおいても肺に刺激性を有するとの記載があることから、区分1（肺）とした。ラット経口投与で区分2のガイダンス値範囲の用量で、白血球数、ヘマトクリット値に影響が見られ、溶血を認めたことに基づき、区分2（血液）とした。
長期又は反復ばく露による肺の障害（区分1）
長期又は反復ばく露による血液の障害のおそれ（区分2）
- 吸引性呼吸器有害性：データ不足のため分類できない。

「抗原転写ニトロセルロース膜」

成分（危険有害物質）：ニトロセルロース

急性毒性：

- 経口 ラット LD₅₀>5000mg/kg (PATTY (5th, 2001) 区分外とした。
 なお、ヒトの想定致死量が 500～5000 mg/kg との記載 (HSDB (2003)) もある。
- 経皮 データなし
- 吸入 吸入（ガス）： 常温で固体である。
 吸入（蒸気）： データなし

- 吸入（粉じん）： データなし
- 皮膚腐食性・刺激性： データなし
- 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性：
データなし
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性：
呼吸器感作性： データなし
皮膚感作性： データ不足。なお、アレルギーを持たない1人の男性が足に怪我をして本物質を浸したリントで包んだところ、12日後に包んだ下の皮膚に紅斑、水疱および落屑を生じたが、閉塞適用が感作性を起こし得ることを示唆するものである述べられている(PATY (5th, 2001))。
- 生殖細胞変異原性： データなし
- 発がん性： データ不足。なお、プラスチック生産工場の労働者を対象としたケース・コントロール研究(PATY (5th, 2001))において、直腸がんと本物質ばく露との関連の可能性が確認され、さらに調査を継続するに値する結果であったことが報告されている。
- 生殖毒性： データなし
- 特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：
経口摂取による中毒は、発現が速く持続時間が短いことを除きエタノールと類似しており(HSDB (2003))、吸入した場合はめまい、多幸感、中枢神経系の抑制、または、呼吸困難、意識喪失を起す可能性があるとの記載(HSDB (2003))に基づき、区分3（麻酔作用）とした。
眠気またはめまいのおそれ（区分3）
- 特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：
データなし
- 吸引性呼吸器有害性： データなし

1 2. 環境影響情報

本混合物では確認していないが、含有している成分（アジ化ナトリウム、エタノール、過酸化水素、ニトロセルロース）で以下の情報が報告されている。

「血清希釈用液」、「対照用強陽性血清」、「対照用弱陽性血清」、「対照用陰性血清」、
「ビオチン標識抗ヒトIgG抗体」に共通

成分（危険有害物質）：アジ化ナトリウム

水生環境急性有害性：藻類(Pseudokirchneriella subcapitata)での96時間ErC₅₀ = 348 μg/L (AQUIRE, 2010)であることから、区分1とした。

水生生物に非常に強い毒性（区分1）

水生環境慢性有害性：急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いと推定されるものの(log Kow ≤ 0.3 (既存化学物質安全性点検データ))、急速分解性がない(直接測定(HPLC)による分解度：1%(既存化学物質安全性点検データ))ことから、区分1とした。

長期的影響により水生生物に非常に強い毒性（区分1）

「発色用液」

成分（危険有害物質）：エタノール

水生環境急性有害性：魚類（ファットヘッドミノー）での96時間 $LC_{50} > 100\text{mg/L}$ （SIDS, 2005）、甲殻類（ネコゼミジンコ）での48時間 $LC_{50} = 5012\text{mg/L}$ （SIDS, 2005）、藻類（クロレラ）での96時間 $EC_{50} = 1000\text{mg/L}$ （SIDS, 2005）であることから、区分外とした。

水生環境慢性有害性：難水溶性でなく（水溶解度 $=1.00 \times 10^6\text{mg/L}$ （PHYSPROP Database, 2005））、急性毒性が低いことから、区分外とした。

「基質液」

成分（危険有害物質）：過酸化水素

水生環境急性有害性：甲殻類（ミジンコ）の48時間 $EC_{50} = 2.4\text{mg/L}$ から、区分2とした。
水生生物に毒性（区分2）

水生環境慢性有害性：水中で速やかに分解するため、区分外とした。

「抗原転写ニトロセルロース膜」

成分（危険有害物質）：ニトロセルロース

水生環境急性有害性：藻類（*Pseudokirchneriella subcapitata*）での96時間 $EC_{50} = 579000 \mu\text{g/L}$ （AQUIRE, 2010）であることから、区分外とした。

水生環境慢性有害性：難水溶性でなく（水溶解度 $=1.00 \times 10^6\text{mg/L}$ （PHYSPROP Database, 2005））、急性毒性が低いことから区分外とした。

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物は大量の水で流す。

使用した汚染容器は水で十分洗浄し、法令に従って処分する。

1 4. 輸送上の注意

注意事項

取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。

輸送に際しては直射日光を避け、容器漏れのないことを確かめ、転倒、落下および損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行うこと。

1 5. 適用法令

労働安全衛生法：

第57条の2（施行令第18条の2別表第9）名称等を通
知すべき危険物及び有害物

政令番号第9号（アジ化ナトリウム）本製品は体外診
断用医薬品のため該当しない。

政令番号第61号（エタノール）本製品は体外診断用
医薬品のため該当しない。

政令番号第126号（過酸化水素）本製品は体外診断用
医薬品のため該当しない。

政令番号第424号（ニトロセルロース）本製品は体外
診断用医薬品のため該当しない。

毒物及び劇物取締法：

毒物 指定令第1条第1号（アジ化ナトリウム）本製
品は体外診断用医薬品のため該当しない。

劇物 指定令第2条第19号（過酸化水素）本製品は体
外診断用医薬品のため該当しない。

化学物質排出把握管理促進法：第1種指定化学物質 施行令第1条別表第1
政令番号第11号（アジ化ナトリウム）

16. その他の情報

主な引用文献

職場のあんぜんサイト <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/index.html>

記載内容については、現時点で入手できる資料等に基づいて作成したのですが、すべてを網羅しておりませんので、取扱いの際には十分注意してください。